

2025年度 事業計画

施設名 ガーデンエル

施設長名 六川 徳子

1. 運営目標

「アッタエルロイ」あなたこそ私を顧みられる神です。
施設名でもあるこの聖句を基本に、ガーデンエルを必要とする乳幼児を受け入れて、次の養育者へ丁寧につないでいく。
里親支援機関B型として、里親支援を充実させていく。
新しい社会的養育ビジョンで求められる10年計画をガーデンロイと連携して進める。

2. イエス団 112年目からの挑戦 ~2040年を目指して~

2024年度分析と2025年度の計画

I. 地域の現状と課題の把握

【2024年度分析】

- ・今年度から里親支援センターが創設され、里親支援について見直されることとなった。大阪府としては里親支援機関B型の活動を後半5年の計画でも継続する為、エルロイもそれに従い、これまで通りの活動を継続した。
- ・大阪府の0-2歳の人口が予想よりも10000人程減少しているが、大阪府の虐待相談件数は1万5千件以上と多く、社会的養護を必要とする子どもの数は大きく変わらない状況にある。
- ・大阪府下では、里親の新規登録者がいる一方、登録取消も一定数あり、里親数は横ばいの状態にある。
- ・東大阪市における各種計画の把握に努めた。
- ・2027年を目標に東大阪市で児童相談所が設立される予定となっている。

【2025年度計画】

- ・施設によるより家庭的な養育支援だけでなく、ロイと共に家庭養育の場としてのMy里親を更に開拓する。
- ・東大阪市国土強靭計画に示された大規模自然災害で想定されている被害に対して備える。
- ・東大阪市第6期地域福祉計画とリンクできるものは積極的に取り組む。

II. 施設内を意識した運営

【2024年度分析】

- ・本来は5ホームでの運営だが、職員体制が整わず、乳児1ホーム、幼児3ホームとなったことで、昨年度よりも依頼への対応ができなかった。
- ・依頼の半数以上が乳児で、特に0~3か月児の依頼が多かった。体制上、すべてに対応することは難しかった。
- ・一時保護ユニットを設定したが、年度途中から長期入所の一時保護児童が多くなり、一時保護、ショートステイを措置ユニットで受け入れた。
- ・一時保護について、受け入れからの家族を含めた情報整理、アセスメントから支援目標までの流れが整理され、よりよい支援につながっている。
- ・措置ホームでは一時保護やショートステイを受け入れることはあったが、全体としては長期を見据えた支援ができ、安定したホーム運営ができた。
- ・外遊びや午後からの遊びでは、ユニットを超えて発達に添った遊びの機会を持つことが出来ている。
- ・ごちそう委員を中心に、食育の年間計画を立てたことで、食に関する豊かな経験の機会を持つことが出来た。
- ・施設内で感染症が流行した際には、病児対応を都度見直し、共有しながら対応をすすめた。
- ・月1回のスーパービジョンの実施は定着しつつある。全体として確認したいことや課題の周知などもSVの時間に少しづつ実施している。
- ・階層別の目標とする職員像について、十分な活用ができず、施設内の共通認識とは出来ていない。また、個別の目標設定について、中間での振り返りを周知できず、年度末でのSVでの振り返りのみになったペアもいた。
- ・事故や対応困難は、会議にて職員全体で課題や対応、環境構成等の検討を行い、養育の改善、環境整備につなげている。
- ・ホーム会議では、事前に子どもの課題等を整理しておくことで、限られた時間で活発に意見交換がされている。
- ・嘱託医とのマンスリーミーティング月1回程度実施。医療ケアの必要な子どもの情報共有を行った。

【2025年度計画】

- ・子どもの生きる力となるよう大人との基本的信頼感やアタッチメント関係を育む。
- ・子どもが心身ともに豊かに成長できるよう、子どもの社会経験など様々な経験の機会を作る。
- ・子どもの遊びの内容を充実させ、発達に応じた遊びができる環境を整えていく。
- ・一時保護について、アセスメントをより充実させ、関係機関と協働し、より良い支援につなげる。
- ・措置、一時保護の関係なく、退所時は、関係機関と協働して、家庭引取であっても、児童養護施設等への措置変更であっても、丁寧に次の養育者へつながっていく。
- ・階層別の目標すべき職員像、スーパーバイズ、OJTを活用した人材育成の体制を整える。
- ・スーパーバイズの時間を確保し、スーパービジョンの内容を充実させる。
- ・事前準備、進行、議題などを工夫しながら、活発な意見交換がなされる会議にしていく。
- ・感染症対策、病児対応を都度見直し、看護師を中心に衛生、感染症対策、病児対応を職員全体に浸透させる。

- ・第三者評価を受審し、よりよい施設運営につなげていく。

III. 地域を意識した運営

【2024 年度分析】

- ・里親支援機関B型の活動として、My里15家庭（養育里親4家庭、養子縁組里親11家庭）の支援を児童相談所と共にやっている。
- ・東大阪の里親会に積極的に参加し、様々な交流をする中で良い関係を築いている。
- ・東大阪市役所、八尾アリオ、地域の商店街での里親相談会に加え、里親に関連した映画の上映会や、依頼を受けて税理士等の集まりにて里親制度や社会的養護の説明を行うなど、より活発に広報活動を行った。
- ・東大阪市のショートステイ利用の申し込みが月に数件あり、入所枠内で可能な限りショートステイの受け入れを行った。
- ・東大阪市東地区地域福祉ネットワーク推進会議に参加している。
- ・暫定定数が3年間続いたことから、定員改定について大阪府と協議し、2025年度から定員が24名となる。

【2025 年度計画】

- ・東大阪市東地区地域福祉ネットワーク推進会議に積極的に参加する。
- ・災害時の福祉避難所の機能を研究する。
- ・里親の新規開拓を進めつつ、里親家庭への支援の充実を目指す。
- ・乳児院の高機能化・多機能化に向けて、ニーズに応えられる事業の在り方、体制を模索していく。

IV. ミッションステートメント 2009 (MS2009)

【2024 年度分析】

- ・職員会議で聖書の言葉に触れ、MS2009への理解を深めることができた。
- ・主の祈りを職員会議前に祈り、気持ちを整えて会議を行うことができた。

【2025 年度計画】

- ・主の祈りを職員会議前に祈る。
- ・職員会議で聖書の言葉を聞く。
- ・新任研修でキリスト、賀川の思いを学ぶ。
- ・SGDs『⑯平和と公平をすべての人に』を目標に、ガーデンエルが乳幼児の安心安全な生活の場であること、また、退所後の生活が穏やかで最善の利益が守られるよう受け入れ先の環境を整えて送り出す。

V. その他

【2024 年度分析】

- ・災害時のため備蓄内容を点検し、食品関係はローリングストックで対応している。賞味期限で消費する時の事を考えて普段の献立に組み込みやすい食品を選んでいる。
- ・備蓄食はアレルギーを考慮して卵を使用しない献立を作成、幼児食20名、大人はエルロイ合わせて30名、水は一人1日3リットルで計算して、6日間分を備蓄できるようにしている。
- ・計画にそって大規模修繕を実施。

【2025 年度計画】

- ・24名定員となるため、備蓄量の見直しをする。
- ・災害に対する備えを見直し、強化する。

3. 利用者人数計画

クラス・事業	ひよこ (0歳児)	たんぽぽ (1-3歳児)	ひまわり (1-3歳児)	さくら (1-3歳児)	合計
認可定員数	6	6	6	6	24

・定員数：24名

4. 利用者サービスの計画（健康・栄養・衛生・安全管理等）

ア) 健康管理

- ・年2回の健康診断実施
- ・定期予防接種、任意予防接種の実施
- ・定期健診の受診
- イ) 栄養管理
 - ・栄養指導・栄養管理技術の向上のため教育研修事業、講演会などに参加する。
 - ・厨房の職員も生活の場に入り、豊かな食生活につなげる。
 - ・個々の成長・発達、心身の状態、体調など必要に応じた食事提供を行う。
 - ・実態の把握とアセスメントを行い、献立の作成、調理に配慮する。
 - ・職員へ食生活や栄養に関する知識の普及に取り組む。
 - ・非常災害時における栄養管理についての整備を行う。

ウ) 衛生管理

- ・消毒を徹底し、感染症の予防、感染拡大防止に努める。
- ・感染症発生時のマニュアルを整理し、看護師による衛生についての講習を定期的に実施する。

エ) 安全管理

- ・ヒヤリハットの記録、共有を徹底する。
- ・危機管理委員会及び避難訓練を毎月取り組む。
- ・事故を想定した訓練、救急救命の訓練も定期的に実施する。
- ・不審者対応を強化し、敷地内に侵入しづらいよう整備する。

5. 職員待遇の計画（昇給、採用退職、福利厚生、研修等）

ア) 昇給

- ・定期昇給を行う

イ) 採用退職

- ・4月から見学説明会と採用試験を実施する。
- ・7月に次年度の意向調査を実施し、入所状況、社会情勢を踏まえて、採用人数を決定する。

ウ) 福利厚生

- ・エルロイ職員交流の機会として、昼食会、新任歓迎会等を開催する。
- ・退職職員に感謝のプレゼントを手渡す。

エ) 研修

- ・キャリアアップを見据え、可能な限り研修を受講する。
- ・階層別の研修計画に沿って、職員それぞれの受講計画を立てる。

6. 施設・設備の整備計画（10万円以上記載）

整備の名称	金額	財源（補助金等の金額）
ナビシステム仕様変更	500,000円	措置費/事務費
裏門の避難経路スロープ化	500,000円	措置費/事務費

7. 借入金償還予定（単位・円）

なし

8. 会計予算の状況

- ・定員24名となり事務費が大きく減収する。また、措置児童数減による減収も見込まれ、人件費率は大阪府下の多くの乳児院と同じく80%を超える可能性がある。
- ・修繕、機能転換に備え積み立てを行う。

9. その他特記事項

- ・特になし

10. 今年度行事等計画書（施設名）

- ・ホーム単位での季節の行事や誕生日会を行う。
- ・厨房からの旬の食材を用いた家庭料理を皆で楽しむ。
- ・月に1回程度、厨房職員がさくらホームのキッチンで夕食の炊飯や汁物を作る。
- ・厨房と協働して、計画的に食育を実施する。
- ・感染症の流行状況を見ながら、子どもの発達に合わせた外出を計画する。

*定例行事（職員会議、月例保護者会等）

- ・子ども：ホーム単位で季節の行事を実施。
- ・職員：毎日 エル申し込み送り（朝・夕）

毎月 施設長・事務長会議、主任会、ユニットリーダー会議、エル職員会議、ホーム会議、ごちそう会議、保健衛生会議、危機管理会議、里親支援会議、情報共有会議、子どものための委員会、厨房会議